

- **参考資料**

(1) モスクワ向けトライアル輸送報告書



目 次

はじめにートライアル輸送の背景とその目的ー	P.4-5
第一章 トライアル輸送の概要	P.6
シベリア鉄道の貨物輸送の利用促進に関する調査	P.7
トライアル輸送の体制	P.8-9
積載貨物明細	P.10-11
在日ロシア連邦大使館への照会と回答	P.12
Russian Railways Logisticsへの確認事項	P.13-15
第二章 トライアル輸送の作業詳細	P.16
シベリア鉄道経路(Via Trans-Siberian Railway)	P.17
所要日数の結果	P.18
ウラジオストク海洋商業港	P.19

目 次

ウラジオストク港に於ける保税転送手順	P.20-32
シリカトナヤ駅(Silikatnaya station)	P.33
モスクワ・シリカトナヤ駅到着後経緯	P.34
シリカトナヤ駅到着後作業手順	P.35-37
シリカトナヤ駅到着後作業における課題	P.38
検証	P.39-42
総括	P.43
添付資料一覧	P.44

P.3

TSIOAJ

はじめに—トライアル輸送の背景とその目的—

2016年12月にプーチン大統領が来日、安倍首相の8項目からなる「協力プラン」が高く評価され、同政権のこれまでにないロシアに対する積極的な連携姿勢に拠り、今後の日露経済関係に明るい兆しを感じた日本人の関係者は少なくないのではないのでしょうか。実質GDP成長率も2015年、2016年と2年間マイナスが続きましたが、2017年はプラス2.1パーセントとロシア経済発展省は2018年1月9日時点で予測を発表しており、ロシア経済も回復基調と言えそうです。

また、2018年は日露政府間の合意に拠り「ロシアにおける日本年」、『日本におけるロシア年』と言う位置付けになっており、両国で多くのプログラムが計画されています。3月には大統領選挙が控えており、6月にはサッカーワールドカップが開催されます。今後の日露経済が良い方向へ進んで行く、2018年はその指針となる1年になるのではないのでしょうか。

ロシアで物流と言えば、広大な国土に張り巡らされた鉄道による物流ネットワークが第一に挙げられるでしょう。その鉄道網を利用した国際物流の観点から見た「シベリア・ランドブリッジ」輸送については、ロシアであるがゆえの、或いは鉄道輸送の持つ特殊性から、そのメカニズムについては一般にはあまり知られていません。日本トランスシベリア複合輸送業者協会(以後、「協会」)ではプーチン大統領の来日に時期を合わせて2016年11～12月に架けてポスターチニ港経由でモスクワ向けにトリアル輸送を実施しました。海上輸送ルートと比較しても遜色のない運賃レベル、輸送日数が二分の一、或いは三分の一に短縮出来ること等が実証されました。

P.4

TSIOAJ

はじめにートライアル輸送の背景とその目的ー

さて、今回のトライアル輸送は既に実証済みのスピードや運賃を再確認する事に加え、ロシアの税関手続きを含めた制度の確認、その手続き上のノウハウや矛盾点について検証を行いました。また、今回は混載コンテナ(複数荷主の複数貨物を積んだコンテナ)を輸送する事で、検証内容を複数設定、前回とは異なった次のステップの為にトライアル輸送と致しました。

我々協会メンバーである事業者は、旧ソ連の時代には大量の国際輸送貨物を取扱ったシベリア鉄道輸送の再構築を通じてロシア経済の発展に寄与し、「シベリア・ランドブリッジ」を日露間の経済交流の柱とすべく、今回の第二回目のトライアル輸送を実施致しました。

結果として、これまでの認識とは違った新たな事実確認も出来、特にウラジオストクでのトランジット手続きの全容はシベリア・ランドブリッジの再構築に大いに役立つものと確信しております。

以上

2018年2月

日本トランスシベリヤ複合輸送業者協会
会長 枘田 建二郎

※日本トランスシベリヤ複合輸送業者協会(TSIOAJ) 会員
東海運輸、同セコト、同東洋トランス、同日航
同日本トランス、同日本トランスラヂー、日本通運等
同日立物流バンデックフオーティナリ、三井倉庫等
【お問い合わせ、敬称略】

P.5

TSIOAJ

第一章 トライアル輸送の概要

P.6

TSIOAJ

シベリア鉄道の貨物輸送の利用促進に関する調査

概要と目的

最新のシベリア鉄道輸送の現状と課題について包括的に把握した上で、日露間の経済協力の関係強化に寄与する事を目的としており、トライアル輸送の実施を通じて報告資料(ケーススタディ)を提出する。

- シベリア鉄道輸送網を利用したマルチモーダルな国際輸送における手続き全般に関するメカニズムの解明。
- 1年前の試験輸送で確認できた輸送日数・鉄道のメリットを踏まえて、今回は以下に挙げる具体的なテーマを設定して、ロシアの現行制度上に於ける可能性の検証を行う。

テーマ

横浜港からウラジオストク港までコンテナ海上輸送を行い、ウラジオストク港に於けるトランジット手続きを経てモスクワまで鉄道輸送する過程で以下の4つのテーマを検証する。

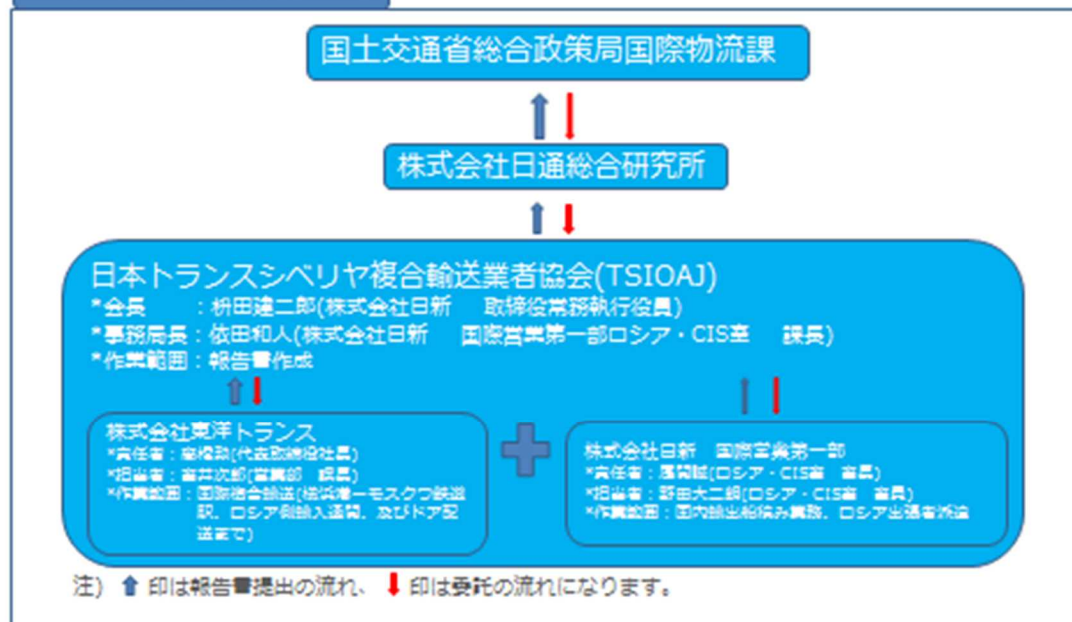
- ① 海上輸送中にウラジオストク税関での保税転送の事前申請を検証する。
- ② フォワーダーが発行するマルチモーダルトランスポートB/L(MT B/L)——(HOUSE B/L、フォワーダーB/L、スルーB/Lなどともいふ)——のロシア税関に於ける適用とRAILWAY BILLの発行について検証する。
- ③ 温蔵コンテナの保税運送のためのウラジオストク税関での手続き、及び鉄道への接続手続きの手順と問題点を検証する。
- ④ ドライコンテナに拠る食料品の鉄道輸送を検証する。

2.7

TSIOAJ

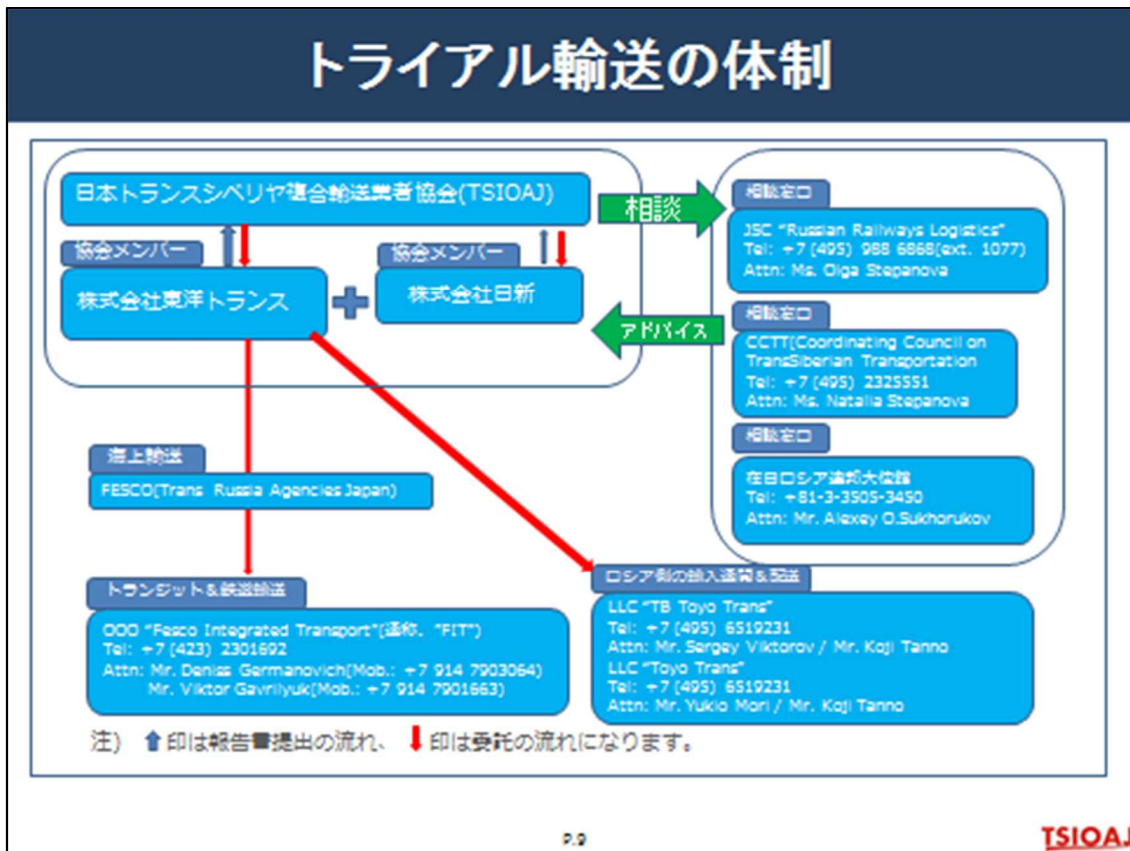
トライアル輸送の体制

トライアル輸送の実施体制



2.8

TSIOAJ



積載貨物明細

東洋トランス	会社案内パンフレット・梱包用資材・種類 (1 Pallet / 0.748 M3 / 67 Kgs)
	
日新	引越用段ボール (2 Pallets / 2.489 M3 / 243 Kgs)
	

TSIOAJ

貨物積載状況

コンテナナンバー
FESJ5189173



シールナンバー
JTSLR057892



コンテナ内
貨物積載状況



使用コンテナ
FESCO社
40F(High Cube)



P.11

TSIOAJ

在日ロシア連邦大使館への照会と回答

今回はロシア連邦大使館から直接のサポートが得られた。具体的には、隠蔽コンテナの保税鉄道運送にかかわる税関規則についていくつかの疑問点を投げかけて、回答を入手できた。スモール・コフ参事官が対応してくださり、連邦税関からの情報を含めて貴重なアドバイスをいただいた。主要な照会事項と回答内容は次の通り。

問：保税運送申告書第53欄「仕向け先(到着地)の機関」の記載内容は？

答：仕向け駅を管轄する税関機関(通関ポスト等)の名称と番号。

問：税関が保税運送申告書以外に押印(記入)する書類は何か？

答：鉄道運送書(RAILWAY BILL)のみ。その他の書類(Ocean BL、INVOICEなど)への

押印はない。

問：混載コンテナを鉄道で保税運送できるのか？

答：可能。運送書類(RAILWAY BILL)一件につき保税運送申告書一件となる*。

運送書類上のConsigneeにはフォワーダー、カーゴエージェントなどがなれる。保税運送申告書上も同様である。

* 以上の回答は法令の解釈であり、現場とは若干異なる場合もありうるとの参事官のコメント通り。今回のトライアルでは、運送書類(RAILWAY BILL)は一件だったが、保税運送申告書は二件となった。

P.12

TSIOAJ

Russian Railways Logisticsへの確認事項

確認事項	RZD Logisticsからの報告
1 RZD Logisticsでのトリアル輸送確認可否	・正式契約が書けば、FEBCOとTransContainerとを任意で利用して輸送可能。 セスクの貨物駅は、FEBCOの場合、Silktrans駅、TransContainerの場合、Voronezh駅。
2 RZD Logisticsの設備	・船積機・コンテナ入機、最終的には、トリアル輸送開始までには特設が無かったため、RZD Logisticsが活用見込み。
3 RZD LogisticsによるLCL輸送の配方法	・輸送の配方法 Shipper: 各々の日本のShipper (東洋トランス・日航) Consignee: 各々のロシアのConsignee (Toyo Trans LLC・Nissan Rus) Container: TransContainer社40F Dr/ Port of Loading: 横浜 Port of Discharge: Vostochny Final Railway Station: Voronezh/Kaluga Region Final Destination: Tver ・@RZDの貨物 海上輸送 (東洋トランス・Vostochny C/O) @RZDの貨物 (Vostochny/港) 鉄道輸送 (ゴロウクトレインにてVostochny駅・Voronezh駅) @RZDの貨物 (Voronezh駅) トランス輸送 (Voronezh駅・Tver貨物ターミナル) 輸入税関 (Tver貨物ターミナル)

P.13

TSIOAJ

Russian Railways Logisticsへの確認事項

確認事項	RZD Logisticsからの報告
3 RZD LogisticsによるLCL輸送の配方法	・必要書類 (いづれも東洋トランス・日航各々の書類が必要) ① Invoice B/L 配船必要事項については、TransContainer社代電より連絡。 ② Invoice (ロシア語版が必要) -インボイス番号、日付 -Shipper・Consignee -HS Code (10桁) -数量、合計金額、品名 -Unit Net/Gross重量、合計Net/Gross重量 -内訳と数量、合計数量 -コンテナナンバー -内訳と数量ナンバー -インボイス番号 -サイン、スタンプ ③ Packing List (ロシア語版が必要) -コンテナナンバー -Unit Net/Gross重量、合計Net/Gross重量 -内訳と数量、合計数量 -品名 ④ 貨物票 各貨物票をこの品名表に付随

P.14

TSIOAJ

Russian Railways Logisticsへの確認事項

確認事項	RZD Logisticsからの回答
4 荷役場の確認可否	・各貨物の明細品名 Code が必要。
5 保険料率・輸入税関におけるコンテナ・色札使用可否	・ロシアの保険料率や輸入税関におけるコンテナ・色札の使用は不可
6 計量器（重量・長さ・体積）の確認可否	・計量器の確認には下記情報が必要。 品名 Code、サイズ、数量、計量器の種類（カメラ等）、各コンテナの計量方法 最終的には、トライアル輸送実施までの検証が必要となる。計量器の確認は要しない。

コンタクト先: JSC "Russian Railways Logistics"
 担当者: Ms. Olga Stepanova / Deputy Sales Director
 Ms. Irina Baginova / Chief Specialist

トライアル輸送に関する上記の問合せを行ったが、1日ほど回答を入手することが出来た。また、Olga Stepanova氏は日本語も堪能なため、日本語でのメールのやりとりも問題が無かった。今回のトライアル輸送については船積みまで時間が無かったためRussian Railways Logisticsの起用は見送ることとなったが、全般的に非常に協力的であり、今後もシベリア鉄道輸送に関する窓口として活用する価値は大いにあると感じた。

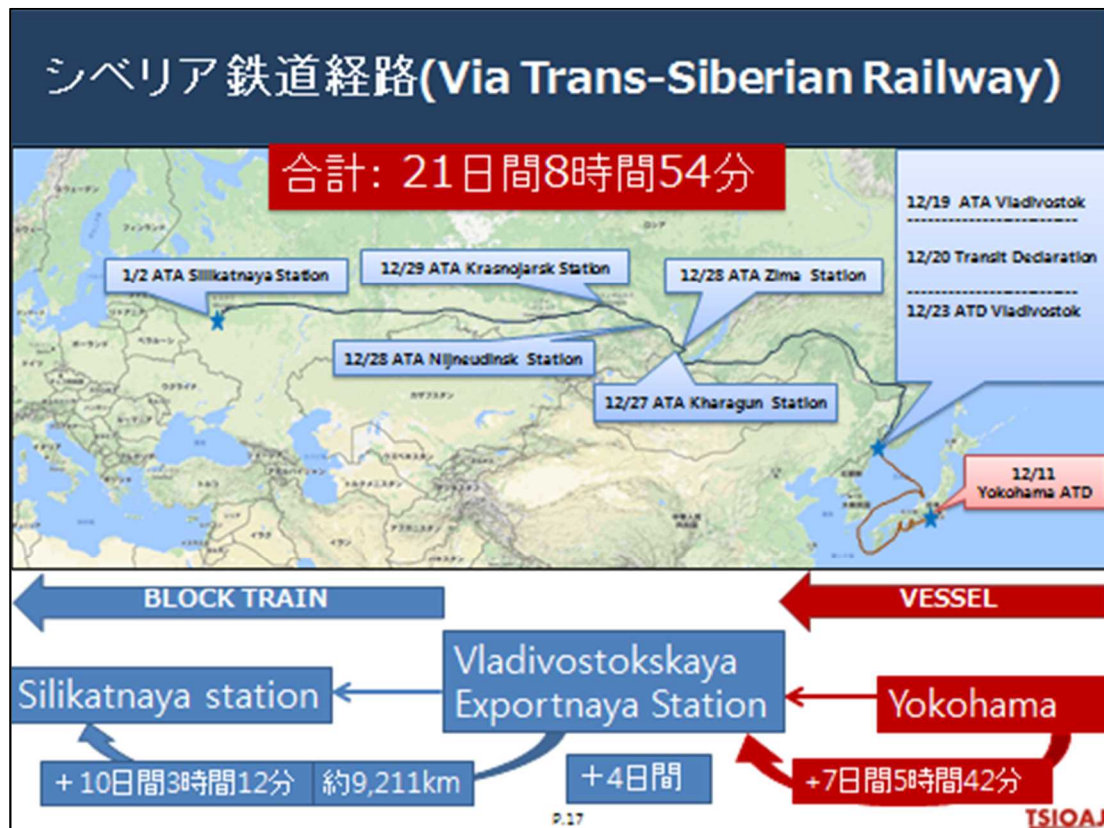
P.15

TSIOAJ

第二章 トライアル輸送の作業詳細

P.16

TSIOAJ



所要日数の結果

CARRIER	FESCO
VESSEL	CONTSHIP ACE
VOY. NUMBER: 023	023
OCEAN B/L NO.	FACE028YOKVVO18
MTB/L NO.	TFTW-3000449 (日新分貨物)
	TFTW-3000450 (東洋トランス分貨物)
CONTAINER NUMBER	FESUS189173
SEAL NUMBER	JTSLR037892
TYPE(Q-ty) OF CONTAINER	40' HC
輸出通関	12/8
CY OUT	12/8
ATA YOKOHAMA	12/9 (18:24)
ATD YOKOHAMA	12/11 (18:18)
ATA VLADIVOSTOK	12/19 (本船着岸)
荷出し	12/19 (18:11完了)
RAILWAY B/L 作成	12/20
保税運送許可	12/20
保税輸送許可	12/20 (获中)
貨車積み、ブロックトレイン構成	12/22
VLADIVOSTOKSKAYA EXPORTNAYA STATION 出発	12/23
SILIKATNAYA STATION 到着	1/2 (AM 3:12)

※横浜 ～ モスクワを21日間8時間54分で輸送

TSIOAJ

ウラジオストク海洋商業港 (Commercial port of Vladivostok)

Number of berths – 15
Total length – 4 km

Open storage area – 362,500 m²
Covered storage area – 71,400 m²

Container Terminal (Berths 16-17)

Total area – 278,000 m²

Total berth length – 741 m

Depth alongside – 12 m ~14 m

Throughput capacity – 600,000 TEU
per annum

Storage area capacity – 13,000 TEU

Plug-in sockets for reefer containers –
426



P.19

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ①

作業手順	必要書類と留意点
日本における輸出通関 横浜出港 ↓	日本での輸出通関手配は通常通り。 必要書類：(1)Invoice, (2)Packing List (いずれもフォトコピー可) ロシア向けという事での特別な船積前検査等はない。 通常通り日本側で経済産業省-輸出貿易管理令等、他法令に該当する場合は、輸出許可-承認の申請-取得は必要。 事前にロシア側で法令該当等により許認可等が必要かどうか確認する必要がある。 ロシア保税転送、輸入通関などを考慮すると、当初からロシア通関用書類(英文露文併記)を作成しておき、それを輸出通関用にも使用するのも一つの方法か？

P.20

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ②

作業手順	必要書類と留意点
本船到着確認(ウラジオストク港) 	本船の入港は Commercial Port of Vladivostok※のシステム(インターネットサイト)で行う。 (※Владивостокский Морской Торговый Порт, 通常「商業港」とか「Commercial Port」と呼んでいる) 当該システムは、同港と契約しないと使用できない。 船会社(FESCO)からArrival Notice(貨物到着案内書)は発行されず、下記手順で到着案内を行う。 船会社(FESCO)⇒鉄道フォワーダー(FIT)⇒輸入者 保税転送手続を使用するために、鉄道フォワーダーから輸入者に連絡を取り、ロシア側で使用するHS CODEを確認している。HS CODEは6桁以降は国によって採番が異なるため。

P.21

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ③



〈Commercial Port入口〉



〈Commercial Portに本船着岸〉

P.22

TSIOAJ

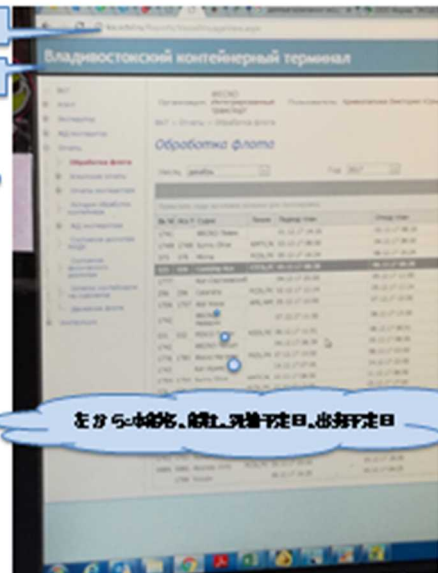
ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ④

<http://kls.vctvl.ru/Default.aspx>

英文: VLADIVOSTOK CONTAINER TERMINAL



(本船に積荷されたテスト輸送コンテナ)

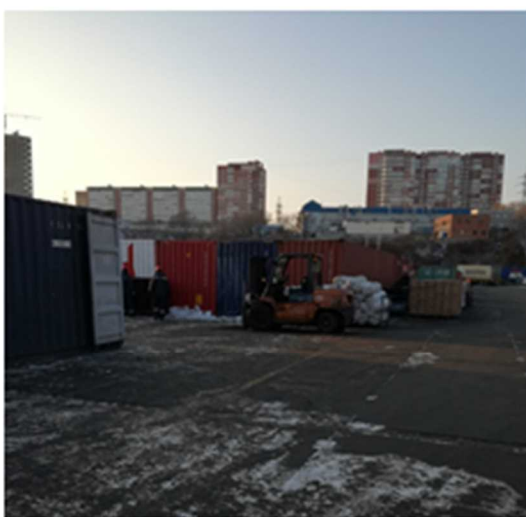


(Commercial Port of Vladivostokサイト)

P.23

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ⑤



(Commercial Port内、税関開扉検査場所)



(Commercial Port内、X線検査車)

P.24

TSIOAJ

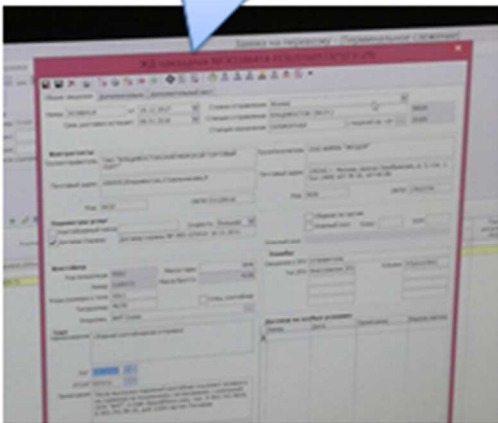
ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ⑥

作業手順	必要書類と留意点
RAILWAY BILL 作成 	鉄道オペレーターFESCO INTEGRATED TRANSPORT(FIT)がシステムでRAILWAY BILLを作成。 作成に必要な情報が含まれている書類: (1)Invoice (2)Packing List (3)Ocean B/L / MT B/Lの記載情報。 ブロックトレインでない場合は、別途、仕向け駅・荷受人の個別情報等が必要になる場合がある。 パッケージ数、個数、重量、ETSNG*(鉄道品目番号)、ロシアHS CODE、品名の一覧表を通常のRAILWAY BILLに添付する(鉄道及び税関の両方に提出—FITの説明)。 日本輸出時のHS CODEは、ロシア側のHS CODE採番に参照されるため、不可欠な情報である。 通常RAILWAY BILLはコンテナ毎に発行される。今回は、隠蔽コンテナ(液状貨主)の場合でもRAILWAY BILLがコンテナ毎に一通作成されることが確認された。 RAILWAY BILL上のSHIPPERであるウラジオストク商業港のターミナルの担当者が署名・捺印する。 ※ETSNG 略称 : Единая тарифно-статистическая номенклатура грузов 英語 : Unified tariff-statistical nomenclature of cargo 日本語 : ロシア輸送貨物品目コード

TSIOAJ

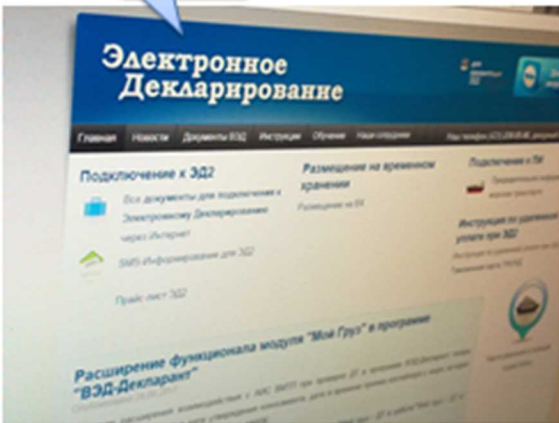
ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ⑦

RAILWAY BILL NO.30388414 -FESU
5169173(エデナ番号)



(RAILWAY BILL 作成用システム)

電子申請



(税関電子申請システム)

P.26

TSIOAJ

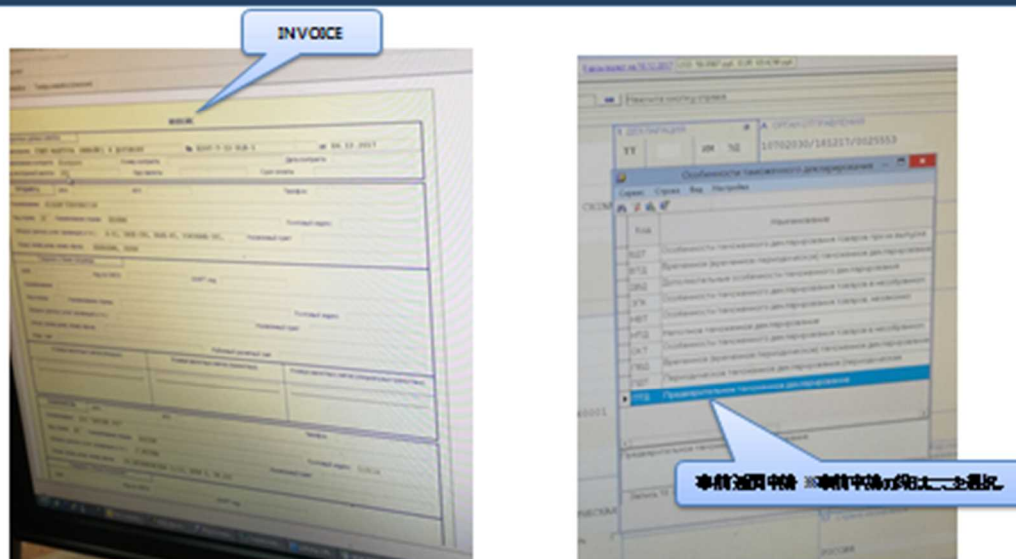
ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ⑧

作業手順	必要書類と留意点
保税転送手続き (Customs Transit Formalities) 	保税転送業者(FIT)が保税運送申告書を税関電子申請システムで作成する。 今回は2荷主・液状貨物の屋載コンテナであるため、保税運送申告書はそれぞれの荷主・貨物ごとに作成・発行された(資料②-1、②-2)。 作成に必要な情報を含む書類(申告書の第44欄に追加書類として記載されている): (1)Invoice (2)Packing List (3) Ocean B/L / MT B/L (4) RAILWAY BILL (5) 陸コンテナターミナル搬入レポート(資料③)。 上記情報を税関電子申請システム(各書類のフォーム)に英語でインプットする。 保税運送申告書作成後、上記インプットした情報と一緒に税関に送信。 税関が保税転送を許可すると、鉄道オペレーター(FIT)が鉄道用に申告書をプリントアウトし、税関が署名・捺印する。 鉄道オペレーター(FIT)が税関にて署名・捺印された保税運送申告書を元取り、RAILWAY BILLと一緒に陸ターミナルと駅で搬出・貨車積み手続を行う。 コンテナ貨車積み後、RAILWAY BILLにコンテナ貨車番号を記載。 ロシア鉄道代理店が鉄道貨物受託の署名・捺印をする。

P.27

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ⑨



(税関電子申請システム[INVOICE作成画面]) (税関電子申請システム[申告書作成画面])

P.28

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ⑩

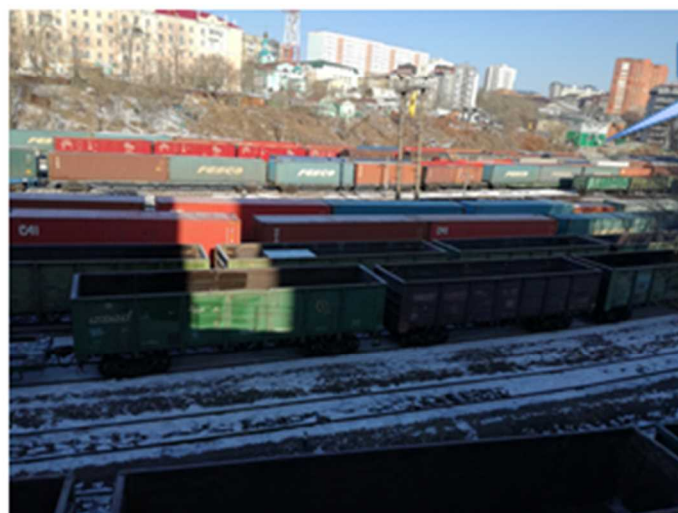
№ контейнера	№ площадки	Зона размещения контейнера	Размер контейнера (DxU)	Сорт	Аварийная маркировка	Вес брутто (кг)	Дата приема на погрузку	Экспедиция	Общая масса груза на платформе (тонны)
40 DUT			40			24 815	08.12.2012	OUT	42.9
40 DUT			40			12 730	11.12.2012	OUT	7.0
40 DUT			40			11 500	07.12.2012	OUT	24.8
40 DUT			40			11 281	07.12.2012	OUT	1.0
40 DUT			40			17 818	07.12.2012	OUT	25.6
40 DUT			40			7 821	07.12.2012	OUT	10.0
40 DUT			40			9 982		OUT	18.9
40 DUT			40			8 520		OUT	7.1
40 DUT			40			10 500		OUT	28.8
40 DUT			40			20 520		OUT	4.1
40 DUT			40			21 500		OUT	43.7
40 DUT			40			21 500		OUT	

(ブロックレインの編成方法を纏めたエクセルシート)

P.22

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ⑪



出発待ちのブロックレイン

(Vladivostokskaya Exportnaya Station)
※Commercial Port入り口から徒歩3分

P.30

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ②

欧米アジア諸国向け一般的なB/Lの記載方法

MT B/L	
Shipper	実輸出者
Consignee	実輸入者

OCEAN B/L	
Shipper	出発地フォワーダー
Consignee	到着地フォワーダー

〔輸入地での貨物搬出の流れ〕

①実輸入者はMT B/Lを到着地のフォワーダーに差し入れ、

船チャージと海上運賃(到着地払いの場合)を支払う

②到着地フォワーダーはターミナルからコンテナを搬出して、CFS倉庫でコンテナから貨物を降ろす。

③実輸入者から船チャージと海上運賃の入金確認後、到着地フォワーダーは実輸入者に貨物を引渡す。

到着地フォワーダーはOCEAN B/L上の
Consigneeになっており、ターミナルで
コンテナを引取れる。実輸入者は引取れない

P.31

TSIOAJ

ウラジオストク港に於ける保税転送手順 ③

ロシア向け鉄道利用時一般的なB/L記載方法

MT B/L	
Shipper	実輸出者
Consignee	実輸入者

OCEAN B/L	
Shipper	鉄道オペレーター on behalf of 輸出地フォワーダー
Consignee	鉄道オペレーター

RAILWAY BILL	
Shipper	出発地ターミナル作業会社
Consignee	到着地ターミナル作業会社

〔輸入地での貨物搬出の流れ〕

輸入通関が完了し、TIC、検査料等の発生した費用が
清算されている事の確認後、貨物の引取りが可能となる。
駅構内の指定された場所へ車両を移動し、貨物の引取りを行う。

シカドナ等には、船荷証券を仕分ける為の
上取設備がないため、作業はすべてPPLで行わ
れる。 --- 注意 必須の手続き ---

P.32

TSIOAJ

シリカトナヤ駅(Silikatnaya station)

FESCO Moscow Shuttle Station Silikatnaya, Terminal "Podolsk"

Terminal "Podolsk"

Station: Silikatnaya (191000)

Address: Cementny lane, 5, Podolsk,
Moscow region, Russia

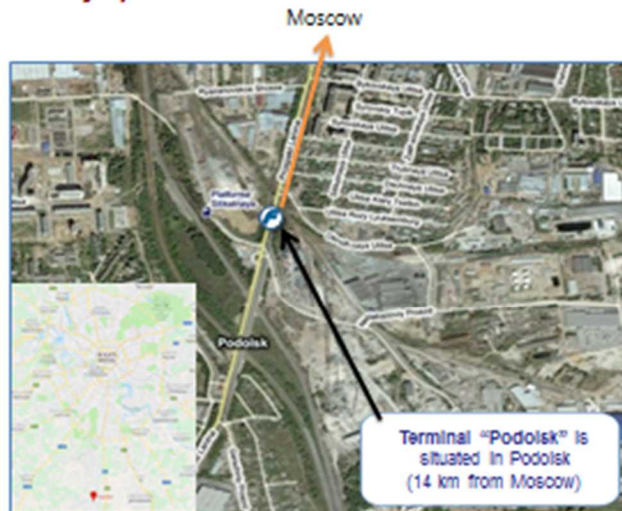
Agent: Ecodor

Container depot capacity 1200 TEU
(40 000 m²)

The work schedule of depot: Daily, w
ithin 24 hour

Door delivery (own park of container
trucks)

Bonded warehouse services



P.33

TSIOAJ

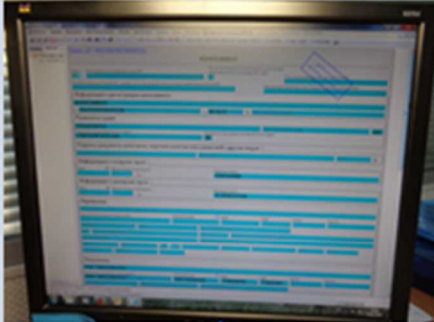
モスクワ・シリカトナヤ駅到着後経緯

	Nissin Cargo	Toyo Cargo
02.01.2018	Arrival cargo to Silikatnaya	Arrival cargo to Silikatnaya
03.01.2018		
04.01.2018	Transit formality completed	Transit formality completed
05.01.2018		
06.01.2018		
07.01.2018		
08.01.2018		
09.01.2018		
10.01.2018		
11.01.2018		
12.01.2018	Preparation for import customs clearance - negotiation for import customs clearance without Certification	Preparation for import customs clearance - negotiation for import customs clearance without Certification (especially to foodstuffs)
13.01.2018	- confirmation from Phytosanitary control about who is in ca rriage	- finalizing documents
14.01.2018		
15.01.2018		
16.01.2018		
17.01.2018		
18.01.2018	Phytosanitary control determined an officer who was sent from Khovrino station.	
19.01.2018	Phyto control and Import customs clearance was completed	Import customs clearance documents were prepared, but there were some problems with customs computers, Import customs clearance was not pass ed.
20.01.2018		Import customs clearance was completed
21.01.2018		
22.01.2018	Cargo pick up	Cargo pick up
23.01.2018	Cargo delivery	Cargo delivery

P.34

TSIOAJ

シリカトナヤ駅到着後作業手順 ①

作業	必要書類と留意点
本通関 (1)  *入力画面一例 (OCEAN B/L入力時の追加画面)	申告作業はLLC "TB Toyo Trans"のPCから行われ、顧客から入手している情報を元に必要な事項を記載していく。 作成に必要な情報を含む書類(申告書の第44欄に追加書類として記載されている)は保税伝送申告と同じく追加画面に情報をインプットする形で作成される。 OCEAN B/L, RAILWAY BILL, 当事者間契約書, そのAppendix, 登記書類, インボイス, トランジットデクラレーション, 通関会社のライセンス, その他が入力される。

P.35

TSIOAJ

シリカトナヤ駅到着後作業手順 ②

作業	必要書類と留意点
本通関 (2)  *税関発のレター(東洋トランス分)	今回は、貨物は社内でのみ利用する旨のレターを両輸入者 (Toyo Trans Inc.とLLC Nissin RUS.) から提出することで、適合証明サートの提示対象貨物に対してこれを免除してもらうことができた。 これが内卸利用に収まる量として認められるかどうかで、紛糾した機嫌で通関に入るまでに時間がかかった一因となる。 認められなかった場合、開税同盟域内の品質基準に適合することを保証するサートを用意しなければならない。

P.36

TSIOAJ

シリカトナヤ駅到着後作業手順 ③

作業	必要書類と留意点
貨物搬出  *貨物積み込みの様子	通関完了後、シリカトナヤ駅の貨物ハンドリング業者である Ekodor社(RAILWAY BILL上のコンサイニー)に対して、貨物の引を取りを申し入れる。 Ekodor社が輸入通関が完了していること、THC・保管料などの料金の精算が完了していることを確認して(今回はFIT社がEkodor社との契約に基づきこれを処理している)、貨物引取り許可となる。 駅構内に入換する際にトラック・ドライバー情報チェックされ、指定場所へトラックを着ける。 今回は、保税エリアのゲートのすぐ奥まで案内され、リーチスタッカーにより、コンテナがゲートの外に置かれ、その後トラックへの積み込み作業がEkodor社により行われる。 シリカトナヤ駅には保税区域貨物を一時的に設置できる上屋設備がないため、作業はすべて屋外にて行われる。

P.37

TSIOAJ

シリカトナヤ駅到着後作業における課題

今後、実際に保税コンテナを保税転送し、モスクワ(およびその近郊)で本通関をかけるにあたり、検討するべき事項としていくつか挙げてみたい。

1) 到着駅の上屋施設に関する課題

今回両社の通関がほぼ同時期に完了したため、両社の貨物を一度に受け取ったが、複数貨物の内一つだけが先に通関が完了し、その貨物だけ受け取りたい場合、貨物の引渡しは税関の許可を得て保税エリア内にて行われることになる。取り出したい貨物が一番奥にある場合、その他の貨物を一旦すべて取り出す必要があり(追加費用が発生)、しかもその作業は屋外にて行われるため、貨物の保全などにも不安が深る。

保税貨物を一旦すべてコンテナから降ろすことのできる上屋施設を備えた駅を採る必要がある。

2) 到着駅での検査・検査体制に関する課題

今回日新社貨物において、随物検査検査対象貨物が含まれていたが、到着駅にその対応機関がなく、検査完了まで数日を要した。シベリア鉄道を利用する以上、船便と比べてある程度スピードを重視する必要があるという観点からは好ましくない。

その他、随物検査検査が必要の場合であるとか、物品税対象の場合なども想定し、保税貨物で送付できる貨物の幅を広げられるように、しかるべき機関がある駅を採しておく必要がある。

3) 通関準備に関する課題

今回のようにサートなしで通関を切ろうとする場合など、事前に税関からある程度内諾を得ておく必要があるなど、事前準備に時間がかかる可能性もあり、貨物発送時にはある程度の目処がついていることが好ましい。

P.38

TSIOAJ

検 証 ①

テーマ①

- ・ウラジオストク税関での保税転送の事前申請を行う。

目 的

- ・保税転送の事前申請を行うことにより、ウラジオストクでの待機時間短縮を図る。

検 証

- ・ウラジオストク港到着30日前から申請可能。但しRAILWAY BILLの事前発行が必須で、記載情報の変更・訂正が発生した場合、その訂正に時間を要する為、リスクが伴う。
- ・必要な情報は本申請と同じ。現在のFIT事務能力(翻訳・採番・コンピュータへのインプット、疑問点の問い合わせ)からして本船到着3日前までにこれらの情報が必須。
- ・ウラジオストク港でコンテナが搬入確認取れてから本申請。本船到着前の保税許可は不可。
- ・事前申請のメリットとしては1〜2営業日の短縮が可能。
- ・デメリットは一旦事前申告した情報は訂正できない。キャンセルして再申告するため最終でも3営業日余分に掛かるリスクがある。
- ・保税転送で利用したHS CODEは輸入通関では使われない。(輸入申告時の申請CODEが適用)

結 果

- ・事前申請について調査を進めたところ、上記「検証」に記載の通り、本船到着3日前までに正確な申請情報が必須であること、更にRAILWAY BILLの事前発行も必須なことが判明したため、今回のトライアル輸送においては、結果的に当該情報・RAILWAY BILLを準備する時間が無く、残念ながら事前申請は送る事にした。
- ・CKDパーツなどの大量・定期貨物は事前申請により1〜2営業日の短縮が十分可能。

P.32

TSIOAJ

検 証 ②

テーマ②

- ・フォワーダーが発行するMT B/Lのロシア税関に於ける適用と RAILWAY BILLの発行について検証する。

目 的

- ・貨物の所有者を明確にする、代金收受前の貨物引渡しを防ぐ等、ロシアにおいてもMT B/Lの活用をはかる突破口を探りたい。

検 証

- ・RAILWAY BILL 2頁のShipper欄の特記事項に、Consignee名が記載されているが、MT B/Lが主要な運送書類として扱われたとは思えない。然しながら、コンテナ1本に対して保税転送が荷主ごとに2件に分かれたという事は、ウラジオストク以降モスクワまでの保税転送を許可するために税関がMT B/Lを何らかの形で参照したといえる可能性はある。

結 果

- ・モスクワにおける輸入申告書(商品申告書)にはMT B/Lの記載がなく、税関が重要書類として扱っている様子は見られなかった。MT B/Lの活用に向けて更なる検証が必要である。

P.40

TSIOAJ

検 証 ③

テーマ③

- ・混載コンテナの保税転送の為にウラジオストク税関での手続き、及び鉄道への積換えの手順について検証する。

目 的

- ・複数荷主の複数貨物を保税状態のまま鉄道を使って運送する際の書類と手順を明らかにする。

検 証

- ・在日ロシア大使館から事前に提供された情報では保税転送申告書は總めて1件発行されるとされていた。
- ・実際にはOCEAN B/L1件、RAILWAY BILL1件、保税転送申告書は2件となった。

結 果

- ・今回のトライアル輸送で混載コンテナの鉄道による保税輸送が可能であることが確認された。
- ・上記の通り、保税転送申告書は2件作成された。

P.41

TSIOAJ

検 証 ④

テーマ④

- ・ドライコンテナによる食料品の鉄道輸送を検証する。

目 的

- ・乾物、飲料、缶詰等の輸送条件を確認し、問題点を探る。

検 証

- ・ロシア鉄道には食品輸送に対する独自の規制がある。FITも輸送申請後に却下されるケースがあるなど、詳細を把握できていない。
- ・具体的に大きな障害になっているのが、ドライコンテナによる飲料・液体食品輸送上の制限である(資料④)。6月~8月、11月~3月はドライコンテナではまったく運べない。
- ・その他、ロシア鉄道がEAC(認証マーク)を取得しているかどうかの確認や、CERTIFICATEの提出を求める場合がある。

結 果

- ・今回のトライアル輸送は、資料④記載のルールにより乾物のみの輸送となった。
- ・輸送日数的には問題がないので、ロシア鉄道の規制を引き続き調査し、場合によっては改善を求めていき、食料輸送に鉄道を活用する方策を追及していきたい。

P.42

TSIOAJ

総 括

今回、最新のシベリア鉄道輸送の現状と課題について包括的に把握した上で、日露両国の関係強化に寄与する事を目的として、4つのテーマを掲げてトライアル輸送を実施しました。

結果として、今回のトライアル輸送において、今までは手配不可とされていた混載コンテナ輸送についてもその取扱いが可能である事が実証され、輸送日数も約21日と欧州経由海上輸送と比較して約1/3の日数で輸送出来ることが確認できました。

一方、ロシア側エントリーポートでの保税輸送の事前申請や、MT B/Lや鉄道輸送における食料品の取扱いについては、まだ障害や不確定要素があり、それらの改善の為、TSIOAJとしても引き続き関係各所への調査・要請を継続して行きたいと考えています。

シベリア鉄道による輸送量の拡大は、日露経済協力の大きな柱となり、両国経済の発展に大きく寄与するものと確信しています。

ここに、今回のトライアル輸送に際して、OCTT、在日ロシア連邦通商代表部、在日ロシア連邦大使館、ロシア鉄道、ロシア鉄道ロジスティクス、FESCO(トランスロシアエージェンシー)に多大なるご協力を頂きましたことを深く御礼申し上げます。

TSIOAJはこれからも日露間の経済協力関係強化とシベリア鉄道輸送ルートの利用促進に向けて積極的に取り組んで参ります。